

2024 年度

学校名 横浜市立子安小学校

対象学年 第4学年

① 学習指導案

プログラム	No.5 「 地域カルタをつくろう 」
単元名 (全50時間)	「子安カルタで地域ともっとつながろう」
学習のねらい	カルタを作るために自分たちの地域を調査する活動を通して、地域には自分たちの知らない様々な「人・もの・こと」の魅力があることを理解し、その魅力をこれからも残したいという思いをもつ。交流を通してまちの魅力を伝える中で、今後も地域の一員として、まちを大切にして、自分ができることを考えようとする力を身に付ける。
学習内容	1 カルタの作り方をしる。 2 子安のまちのよさを調べ、見つけた魅力をカルタにする。 3 つくったカルタを使って、地域ケアプラザや学区の保育園と交流する。 4 交流を繰り返しながら、子安のまちの魅力がより伝わるものにカルタの中身をブラッシュアップしていく。
参考資料 準備品 実施場所等	シゲタサヤカ 『遊んで学べる 神奈川県民ジモトかるた』

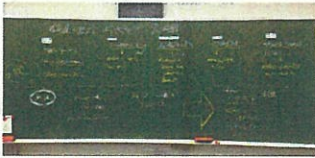
学習の流れ

小単元	○学習活動	●教師の支援	☆評価
1	○総合的な学習を通して実現したい自分たちの思いを出し合い、「地域ともっと仲良くなりたい」「まちの魅力を伝えたい」というクラスの願いを決める。	●昨年度の活動を振り返ることとで、それぞれの活動には、その活動の元になった「願い」があったことをつかめるようにする。	
	○クラスの願いを実現するためにふさわしい材について話し合い、「地域カルタ」を活動の柱にすることを決める。	●「一人一人が考えて活動できるもの」「何度もくり返し取り組めるもの」「みんなで一つの目標に向かって取り組めるもの」という3つの視点を示すことで、子どもたち同士の話し合いを促す。	

2	○カルタのよさや、カルタの特徴について様々な資料をもとに調べる。	●国語の学習とも関連づけることで、リズム（語感）のよさにも気付けるようにする。 ●「神奈川県民ジモトかるた」を参考しながら、自分たちがつくるカルタの方針を話し合って決める。	☆リズムのよさや、絵が用いられているといったカルタの特徴を理解する。
	○子安のまちの魅力を見付けカルタをつくる。 ○つくったカルタを使い、自分たちで遊んでみる。	●まちの昔と今を比較できる資料を用意したりして、様々な視点からまちの魅力に気付けるようにする。	☆子安のまちについて積極的に調べ、まちの魅力を考えようとしている。
	○自分たちのつくったカルタを振り返り、発見したまちの景観や魅力がより伝わるような内容を試行錯誤する。	●話し合う際の視点を明確にすることで、子どもたち自身の意見から問題解決に向かっていけるようにする。	☆「まちの景観や魅力が伝わるか」という視点から、よりよりカルタになるように意見を述べたり自分の考えをまとめたりしようとしている。
3	○地域カルタを中心に、地域との交流を行う。		☆地域の人との交流を通して多くの人にまちの魅力を伝えようとしている。
	○自分たちの目標の達成に向けて地域との交流を試行錯誤しながら繰り返す。	●「まちの人と仲良くなれたか」「子安のまちの魅力が伝わったか」の2点を、交流を振り返るときの視点にする。	
4	○自分たちの活動を振り返り、まち（地域）の魅力とは何なのかを話し合う。	●これまでの学習を総合的に捉え、「人・もの・こと」の視点から、自分たちの考える子安のまちの魅力を考える。	☆有名な人やもの景観だけでなく自分たちのまちには様々な魅力があることに気付いている。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立子安小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
10 〈総合〉	教室	○今年度の総合的な学習のテーマについて話し合い、学習の見通しをもつ。 ○どのようなカルタをつくるか、そのためにどんな活動が必要か、活動の計画を立てる。		自分たちが身に付けたい力を明確にし、それに合った活動として地域カルタを選択し、ここからの学習に意欲をもつ姿が見られた。
23 〈総合〉	教室 地域	○まちを巡ったり、まちの昔と今を比べる資料を活用したりしてまちの特徴について調べる。 ○集めた特徴をまちの魅力に合わせて整理・分析し、言葉や絵を工夫しながら読み札と取り札に表す。		「まちの魅力」とは何なのかと、自分たちで問いを作りながら、それを解決するためにまちのことについて進んで調べる様子が見られた。
15 〈総合〉	教室 地域	○作ったカルタをもとに地域の保育園を訪問し、カルタ遊びを通して交流を行う。 ○園の先生からの助言をもとに自分たちの交流について振り返り、よりよい交流を目指して話し合う。 ○話し合ったことをもとに、まちの魅力が伝わるような交流を試行錯誤しながら繰り返す。	 	保育園の子どもたちとただ仲良くなるだけでなく、「自分たちが調べたまちの魅力を知ってもらいたい」という思いをもとによりよい交流を目指して話し合う姿が見られた。

2 〈総合〉	教室	自分たちの活動を振り返り、まちの魅力や景観に対する気づきをまとめるとめる。	有名な人や店だけでなく、まちに住む人々の優しさや何気ない景色にもまちの魅力が隠れていると話す児童の姿が見られた。
-----------	----	---------------------------------------	--

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 「五色百人一首」や「神奈川県民ジモトかるた」などをさりげなく教室に置いておき、児童の興味・関心を引き出すようにした。また、児童が気付いたあとには実際に五色百人一首で遊ぶ時間を設けたことで、「自分たちでもカルタをつくってみたい」という声や、読み札にあるリズムのよさに気付く姿が見られた。
(2) 実施にあたり苦労した点 「いろはカルタをつくる」という方向性に決まったことで、50音分のカルタをつくることになり、児童の調べる情報が破ってしまうことがあった。また、それだけの量のカルタをつくるために情報を調べる時間が想定よりも多くなってしまった。
(3) 児童の反応 カルタづくりを通して自分たちの住んでいる地域に改めて目を向けることで、知っているようで全く知らなかったまちの様子がどんどん見えてくる過程を児童も楽しんでいるように見られた。そのため、保育園との交流の中でも、「ただ仲良く遊べたからOK」ではなく、「子安のまちの魅力を上手く伝えるにはどのような流れにすればよいのだろうか」と真剣に話し合い、試行錯誤する姿が見られた。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 まちには今見えている景観だけでなく、その景観が生まれるに至った歴史や人々の思いがあることに気づき、学区だけでなく一つ一つの地域への興味・関心が高まった。いつもは通らない道を通ってみたり、そのまちについて調べてみたりする機会が以前より増えたように感じる。
(5) 今後の課題と取り組み（児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等） 子どもたちがまちの情報を調べる際の視点を明確にすることや、それらを「魅力」としてどのような言葉で発信していくかの教材研究が必要。「カルタを作った」ことに児童が満足してしまうことのないように、指導と評価を繰り返しながら学習活動を進めていくことが大切だと感じた。